

植野達郎先生の思い出

佐々木 真理

植野達郎先生に初めてお目にかかったのは、本学の公募に私が応募した際の面接でした。そのときは、フォークナーの研究者として、私の修士論文（フォークナーの作品を取り上げたもの）について、いくつかのご指摘を頂戴したのをよく覚えております。その後は、私の前任校の山梨大学まで、当時の文学部長でいらした国文学科の湯浅茂雄先生とお二人でわざわざ割愛願いにお越しくださり、甲府でお迎えしたのを覚えております。本学に私が着任してからは、私の研究室にまだほとんど蔵書や辞書らしきものがないことに目を留められて、植野先生がお持ちの研究社新英和大辞典を一冊くださいました。また、当時は日野のキャンパスということもあり、周囲にあまりお店やレストランがなかったので、昼食にお勧めのお店などをご紹介くださいました。植野先生の研究室には膨大な蔵書があり、ご専門のフォークナーにとどまらず幅広いジャンルの作品や作家に関する資料をお持ちで、お邪魔するたびにいろいろと勉強させていただきました。渋谷キャンパスに移ってからは、美味しいコーヒーの香りが植野先生の研究室から漂ってくることもあり、ゼミの学生さんたちとコーヒーやお菓子を楽しみながら談笑されている様子を拝見したものです。ご退職後も、文学に触れられながら、コーヒーの道を究められていくことと拝察いたしますが（あるいは蕎麦打ち？）、益々のご健勝をお祈り申し上げます。